

7月号

第二回古典の日文化基金〔未来賞〕受賞

津屋崎臨海学校実行委員会



交わりの少なくなりぬ時なれどまこと言葉で心つながる
—福岡教育大学 幸地梨香—

〔受賞理由〕

福岡教育大学の学生を中心に1993年の発足以来30年、風光明媚な津屋崎海岸で、小学生を対象に臨海学校を開き、体験学習の感動を短歌に表現する活動を続けてきた。「豊かな言葉は豊かな心を育む」をモットーに企画からすべてを大学生で運営。この2年は、コロナ禍のため予定を短縮するなどの対応に追われたが、次世代を担う子供たちの豊かな心を日本の伝統文化によって育もうと取り組む活動を応援したい。

津屋崎臨海学校実行委員会

「和歌で育む豊かな心～古典の日に寄せて～」

こんにちは。津屋崎臨海学校実行委員会OBの山下瑠璃です。津屋崎臨海学校は、平成5年に福岡県津屋崎市にて、将来教師を目指す福岡教育大学や九州女子大学の大学生を中心に、企画・運営をすべて学生の手で行う教育事業として始まり、令和5年には31回を迎えました。現在、諸事情により活動を休止していますが、参加した子供達は臨海学校での体験や、その時に感じた思いを大事に、たくましく成長しています。令和4年に文化基金賞未来賞を戴けたことは実行委員の自信にもなり、大変励みになりました。

津屋崎臨海学校では、「豊かな言葉は豊かな心を育む」をモットーとして、すいかわり大会やなわとび大会などのプログラムを経て感じたことを三十一文字の「和歌」に詠む、という体験を大切にしています。二泊三日のプログラムの中で、詠まれる和歌は毎年約200～300首にのびります。「三十一文字(みそひともじ)」の限られた字数で思いを言葉にすることで、「感動の中心を深く見つめる」という営為が生まれます。何が楽しかったのか、どんな言葉が嬉しかったのか。感動体験をじっくりと見つめ、厳選された言葉に詠み表すことで、その体験が色濃く、深く心に刻まれ続けていきます。

応えんし応えんされてとんだときがんばる気持ちわき出てきたよ(小6女子)
もう一回失敗しても大丈夫みんなの声が力になった(小4男子)
かがやきがいっぱいあふれるこのきもちワカはたのしいほんとにたのしい(小1女子)
感じたり思ったりしたその時は自然とわかがよみたくなった(小5女子)
ぼくのことと和歌に表してくれたからぼくはあなたに和歌をかきたり(小6男子)

これらの和歌は、臨海学校に参加してくれた小学生が、大学生の先生達と一緒に詠みました。SNSの流行や、コロナ禍の影響により、直接的な心の交流が希薄になる現代で、友達の応援のお陰で頑張る気持ちが沸いてくる子、心が動いた時に和歌を詠みたくなる子、友達に詠んでもらった嬉しさから和歌を返す子など、自分の気持ちを三十一文字の和歌に託すことで、心の交流が深まっていきました。

実行委員自身も和歌を詠む鍛錬を積み重ねていくことで、子供の心に寄り添う力を磨くことができました。今後も日本文化である「和歌」を詠み重ねながら、日本文化の良さを実感しつつ、子供たちに文化を広めるとともに、豊かな心を育んでいけるよう、実行委員一同精進してまいります。

津屋崎臨海学校実行委員会OB 山下瑠璃

津屋崎臨海学校の活動について

- ◆平成5年 福岡県津屋崎市にて第1回津屋崎臨海学校を開催
令和5年 第31回津屋崎臨海学校を開催
現在は活動を休止中

[プロフィール]

津屋崎臨海学校は、「短歌創作」を柱とした教育事業です。平成5年に当時の学生が実習先で、人やもののいのちを大切に感じられない子供たちの姿と教育の荒廃を目の当たりにしたことを機に開催されました。「豊かな言葉は豊かな心を育む」をモットーに、すいかわり大会やなわとび大会などの体験を経て生まれた感動を短歌に表現することで、豊かな情操・感性を育んでいます。そのような短歌で詠む心で貫く臨海学校は令和5年に31回目を迎えました。

活動の様子



友達を応援する大会や、子供たちに寄り添いながら短歌創作を行う様子